

三年食物科の奮闘 プロ意識養う

三年食物科は十月二十四日、三十一日、十一月七日の三日間、校内で一〇〇食弁当を販売した。三つの班がそれぞれ「ハロウィン」「大運動会」「懐かしの給食」というテーマのもと試行錯誤しながら秋らしい弁当を作り生徒や教員に提供した。また課題研究の一環として、mint、ほっとむら、こるばで厨房を借りて、一日限定のカフェを開いた。

一〇〇食弁当販売



三兄弟のいたずら弁当
班長 西野夏叶

り、モンブランにクモの巣チョコを乗せたりと、いたずら要

素を入れてハロウィン感を出した。食物科らしさを表現することにこだわった。当日は時間通りにお客様に提供できるか心配だったが上手くいったよかった。

復活!!給食弁当
班長 山口愛望

食べた人に懐かしいと思ってもらえるように、みんなが大好きな給食をテーマにした。地域によって給食のメニューが

違うため、みんなが懐かしいと感じる献立を考えることが大変だった。たくさん候補名が出たが、浦谷さんと松井さんが考えた「復活!!給食弁当」に決めた。お客様の「美味しかったよ」の言葉が嬉しかった。

僕らの大弁当会
班長 中道梨央

秋といえばスポーツの秋、そこから連想して大運動会と弁当をかけた名前にした。運動会の日に入っていたら嬉しいおかずをたくさん入れた。試作から本番を向かえるまで大変だったが、「美味い」と言ってくださる方が多く嬉しかった。



満点の笑顔で食べるお客さん

で、計六十四人にランチを提供した。記者もチケットを手に入店すると、ほとんど待ち時間なく出来立ての料理が運ばれてきた。今回は「おとなさまランチ」をテーマにしたプレート。メニューはケチャップライスは、かぼちゃコロッケ、ハンバーグ、タコさんウィンナー、温野菜サラダ、デザートはコーヒージェリーと、満足感

のある一皿だ。お客さんは「ハンバーグはふわふわでソースともよく合っていた。ボリュームがあり満足できた」「かぼちゃコロッケは中がほくほくで家庭では中々できない料理で美味しかった」などと話



分担して盛り付けを行う

した。mintの他に、十一月十九日に十村駅のほっとむらで「和食ランチ」を、二十三日に美浜のこるばで「カツカレーランチ」を提供し、どの会場も賑わいを見せていた。

担当の松永先生は「夏に続き二回目のカフェだったため、新しいことにも挑戦した。苦悩もあったが大きな学びになったと思う」と語った。

嶺南地域の魅力を体感 小浜線で巡るガチャ旅



十月十四日、十五日に美方高校生が企画した「ガチャ旅」第二弾が開催された。「ガチャ旅」とは参加者がJR小浜線の敦賀駅と小浜駅に設置されたガチャを引き、小浜線に乗って指定された駅へ行って、ミッションをクリアするという企画。ミッション達成をメールで報告すると、嶺南地域の特産品等が抽選で当たる。第一回は三月十二、十六、十九、二十一日の計四日間で二二六名、第二回は二日間で計二二三名が参加した。

この企画は二年の竹村凌一、山口桂吾、吉田匠吾、和多田明陽、渡辺悠大が小浜線利用促進協議会と協力し、企画した探究活動の一環である。「小浜線ムーブメント企画」と題して、高校生が小浜線の利用を促進するための企画を考えた。

第一回は事前申込制で実施し、平日以外は予約開始すぐに定員に達した。ミッションは嶺南地区の高校生へのアンケートを基に考えられた。例えば敦賀駅なら「ヨーロツパ軒でランチ」小浜駅なら「あかおでカレー焼を食べる」等だ。第一回の参加者は多く盛況であったが、これは一時的な利用

募めるよう工夫したい。五人は継続的な利用促進を達成するため一回目の反省を生かし、二回目は二日間のイベント終了後も一ヵ月ほど駅にガチャを設置すること、予定が合わなかった人も参加して抽選に応



出発が待ち遠しい子どもたち

者増加に過ぎない。五人は継続的な利用促進を達成するため一回目の反省を生かし、二回目は二日間のイベント終了後も一ヵ月ほど駅にガチャを設置すること、予定が合わなかった人も参加して抽選に応

【記者も参加】十月十五日、記者らは小浜駅でガチャを引いた。出た駅は上中駅。小浜駅でガチャ旅に参加していた家族連れに話を聞くと「子どもが電車好きで前回に引き続き参加した。ガチャで引いた目的地は前

回と同じ敦賀だったが、今からとても楽しみ」と話した。上中駅まで小浜線に乗ること約十三分。我々はミッションである「和伊和亭でランチ」を達成するた

め目的地向かった。ペペロンチーノやマスターー押しの若鳥のから揚げ等気になるメニューがたくさんあったが、看板メニューの「和伊和オムライス」を食べた。ガチャ旅を通して、自分が住んでいる地域への愛着がより深まった。これからもこのイベントを続けていってほしい。

県英語弁論大会 山口桂吾さん優勝

十月七日、福井市の国際交流会館にて第六十三回県高校英語弁論大会が開催され、二丁山口桂吾さんが留学や海外居住経験のない生徒向けの一部で見事優勝を果たした。今大会には三十五人が出場し、内容や表現力を競った。

分の性格が探究活動で「ガチャ旅」を企画・運営したこと、変わり、自分の殻を破ることができたことと流暢な英語で発表した。優勝した山口さんは「数字や難しい英文が続くところは暗記に苦労した。大会では周りの人たちの発音が凄



ジェスチャーをしながら発表

え目だった自分。山口さんはこれまでの経験を交えながら、控えめながらも、自分自身が優勝するとは思わず驚いた。優勝できてとても嬉しかった」と話した。

編集後記

一六二号を読んでもう一度読んでほしいです。今年泊四日の東京研修旅行が行われ、制限のない学校生活が戻ってきました。また、美方高校の代表として大会等に参加する人が多く、興味を引く話題が多かったです。部活動でも成績を上げた部が多く盛り上がりがありました。今回も多くの方に協力して頂いて完成させることができました。ありがとうございました。来年もよろしくお願ひします。